

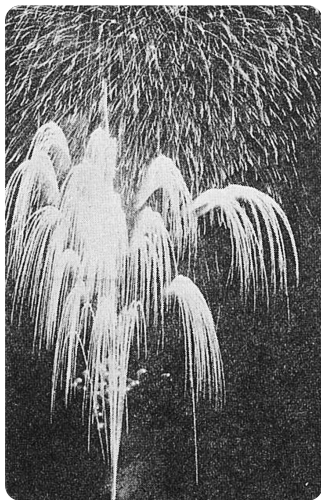
上三川町は町村合併60周年を迎えました!!

昭和30年(1955年)4月29日、上三川町、本郷村、明治村が合併し、現在の「上三川町」が誕生しました。今年度、町村合併60周年を迎える上三川町。その町の姿を様々な角度から、1年間に渡りご紹介いたします。第4回は、町と夏祭りです。上三川町で行われている様々な夏祭りを紹介します。

日本には四季折々のお祭りがあります。地域により祭りの内容・意味は異なりますが、春には豊作祈願や桜のお祭り、秋には収穫に感謝するお祭り、冬には1年間の感謝と次の年の無事を祈るお祭りなどがあります。

それでは夏祭りにはどのような意味があるかというところ、お盆や七夕、祇園祭・天王祭に由来するものが多く、その他にも疫病を封じ込めるための祭や夏の農業の疲れに関わる行事などもあります。

上三川町の夏祭りとして、大きなものは「かみのかわ町おこし夏祭り」・夕顔サマーフェスティバル・Nかみのかわ「かみのかわサンフラワー祭り」の3つのお祭りがあります。また、各自治会による子どもみこしや盆踊りなども実施されています。



昭和43年鬼怒川河川敷花火大会



上三川音頭を躍る踊り手達



上三川音頭振り付け

上三川の夏祭りといえば「上三川音頭」のメロディーを思い出す方もいるかと思えます。この歌は昭和50年、上三川町が合併20年を迎えるに当たり、広く募集をかけた作成した歌で、それから40年上三川町で歌い続けられています。

「上三川音頭」

- 一、ハアー 遙かナー
遙か西空 男体山がヨー
今日も見守る わしらが町は
人情溢(あふ)れて ホンニソレソレ ホンニソレソレ
 - 二、ハアー 町はナー
町は自慢の カンピョウ産地ヨー
広い田園 工業都市の
緑豊かな ホンニソレソレ ホンニソレソレ
 - 三、ハアー 昔ナー
昔ながらの かずある名所ヨー
空の雲さえ 見とれて浮かぶ
ゆめもなつかし ホンニソレソレ ホンニソレソレ
 - 四、ハアー 鬼怒のナー
鬼怒の流れが 変わらぬようにヨー
永久(とわ)に伸びゆく わしらが町は
老いも若きも ホンニソレソレ ホンニソレソレ
 - 五、ハアー 月はナー
月はまんまる 踊りもまるくヨー
やぐら太鼓に 心も躍(おど)る
手拍子そろえて ホンニソレソレ ホンニソレソレ
- ホンニ栄える 上三川



かみのかわおまつり夏祭り

毎年7月中旬に開催されるかみのかわ町おこし夏祭りでは、上三川通りの一部区画を歩行者天国にして、白鷲神社の大みこしや各自治会で所有するみこしを上三川通りに集めます。そのほか、みこしだけでなく、山車屋台やお囃子が巡行します。

このお祭りは、八坂祭・天王祭とも呼ばれており、夏に多い疫病や風水害などの災害を鎮め、取り除く神として須佐之男命を祭神としています。

また、同じ時期に各自治会でも子どもみこしなどのお祭りが行われており、各地域で子ども達がみこしを担ぐ光景を見ることが出来ます。

昭和50年



昭和57年



昭和63年



平成4年



平成10年



平成12年



平成25年



平成26年



盆踊り

大勢の踊り手が参加する夏祭り
 と言えば、今は夕顔サマーフェス
 ティバルを思い浮かべる人も多いと
 思いますが、それ以前は役場の西
 側駐車場であつたと盆踊り大会が
 開催されてきました。

この盆踊りは昭和46年から、上三
 川小学校や上三川中学校の校庭で
 開催されてきました。その後、第13回
 となる昭和58年から開催場所を役
 場西側駐車場に移し、平成13年まで
 開催され、夏の夜のひとときを楽し
 ませていました。

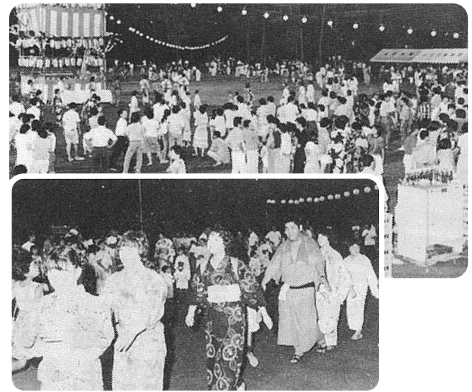
また、各自治会でも盆踊りは開催
 されており、おとしし大山地区では
 60数年ぶりに開催されるなど盛り
 上がりを見せています。



上三川小学校での盆踊り(昭和52年)



役場西側駐車場での盆踊り(平成10年)



富士山公園での盆踊り(昭和57年)

夕顔サマーフェスティバルかみのかわ

夕顔サマーフェスティバルは当初、
 夕顔納涼祭という名称で、平成8年
 から上三川城址公園で開催されてい
 ました。その後上三川通りが広く
 なったのをきっかけに、平成10年に
 当時25年ぶりであつた花火大会を再
 開させ、会場を上三川通りに移しま
 した。

また、平成13年からは、それまで
 実施していた「上三川町ふるさと盆
 踊り」と「夕顔納涼祭」を一緒にして、
 現在の「夕顔サマーフェスティバル
 ーINかみのかわ」に改称し、流し踊
 りと納涼花火大会の2部構成のお
 祭りとなりました。



第1回夕顔納涼祭の様子(平成8年)



夕顔サマーフェスティバル(平成13年)



花火大会の様子(平成20年)

愛宕神社奉納相撲

愛宕神社奉納相撲は、江戸時代中期、村に疫病が流行った際に、愛宕神社に祈り、相撲を奉納すると、疫病は静まったことから始められたと言われ、200年以上続いている伝統行事です。

この奉納相撲は、戦後まもなくまでは、大人による草相撲が呼び物で、地元の名士も集まるほどの人気で、地元の精鋭たちも集まるほどの人気でした。しかし、時代の流れとともに大人たちの相撲も姿を消し、主役は子供たちに移りました。

現在は、子どもたちの健やかな成長を願い、小学生を中心とした子供相撲が行われています。境内の土俵で子どもたちが次々に対戦し、迫力ある取り組みを繰り広げます。



人で賑わう愛宕神社



プロの力士を呼んだことも(昭和62年)



豆力士達の名勝負(平成25年)

かみのかわサンプラワー祭り

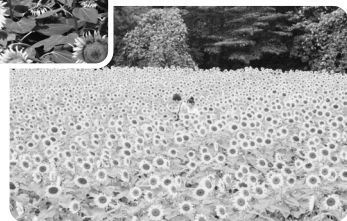
平成20年から始まったこのお祭りは、今年で第8回を迎え、約3haの畑に広がるおよそ10万本のひまわりが、見に来た人の目を楽しませてくれます。上三川町農村環境改善センターのグラウンドではイベントが開催され、歌謡ショーや大道芸など、さまざまなイベントが執り行われます。

ひまわりだけでなく隣接した磯川緑地公園では涼がとれるほか、最終日には近くの愛宕神社で奉納相撲が行われます。

また、同じようにひまわりのイベントを行っている「野木町」「益子町」と、平成25年にひまわりサミット共同宣言を締結し、スタンプラリーを行うなどの取り組みを行っています。



第1回サンプラワー祭り(平成20年)



一面に広がるひまわり畑



益子町・野木町・上三川町のキャラクターが勢揃い(平成25年)